

**授業概要**

近年、日本の輸出立国としての地位が揺らいでいる。しかし、輸出立国を目指す代わりに海外から投資を呼び込む投資立国を目指すこともできる。このような課題に直面する状況にあって、議論すべきは「どのような生産性の高い社会が望ましいのか」という問題であり、経済学が導きだす結論が課題解決にとって有効な手立てになることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、国際経済についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい社会とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めていきたい。

**授業計画**

第1回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第2回	国民所得水準の決定 貯蓄と投資による説明
第3回	国民所得水準の管理(1) 乗数理論
第4回	国民所得水準の管理(2) 財市場の分析
第5回	国民所得水準と貨幣的側面 貨幣の需要分析 3つの動機
第6回	貨幣の供給 中央銀行の行動
第7回	市場利子率の決定 所得変化による市場利子率の変化 財政政策と金融政策
第8回	対外的取引会計: 貿易収支 金融収支 経常収支 国際収支の仕組み
第9回	為替レートの決定メカニズム 固定相場制と変動相場制
第10回	国内金利と為替水準の関連 資本移動と為替変動
第11回	対外取引下の財政政策と金融政策
第12回	経常収支と金融収支 国際収支均衡線 (BP 曲線)
第13回	資本移動が自由な変動相場制下の金融緩和政策(1) LM 曲線の変化
第14回	資本移動が自由な変動相場制下の金融緩和政策(2) 金融収支と外国為替市場
第15回	資本移動が自由な変動相場制下の金融緩和政策(3) IS 曲線の変化
第16回	期末試験 筆記試験の実施

**到達目標**

経済学の考え方、分析手法、論理体系を学ぶことで、政策的な国際収支均衡の目標について考えることを通じて、最終的には学生個人が一人の社会人としての見識を持ち、政策を批判的に考察できる。

**履修上の注意**

この授業は、PBL (Project Based Learning) を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の講義を行う。また、事前的に経済学の知識は必要なく、必要に応じてその都度経済学の考え方を紹介する。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

**予習復習**

現下の日本の金融政策の政策手段について事前に調べておくこと。講義で描いた図が何を表しているのかを講義後にまとめること。

**評価方法**

期末試験としての筆記試験 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

**テキスト**

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。